Japan Society of Educational Information

ＳＮＳと個人情報に関する意識調査

阿久津　毅[1]

<概要>本研究では、学生がインターネット上での個人情報の扱いについて、どのような意識をもって臨んでいるかを明らかにし、インターネット環境における教育の在り方、特に社会にでる前に身につけておきたいネチケット教育への方針を明らかにする目的で行う。
ｍｉｘｉなどのＳＮＳでは、従来匿名による登録を認めていた。しかしながら、ＦａｃｅＢｏｏｋでは実名登録をすることを基本としており、偽名、匿名を認めていない。それに追随する形でその他のＳＮＳも実名による登録を利用者に促すようになってきている。実名登録は旧交を温めたり、就職活動や営業活動などに効果を上げる一方、犯罪などに巻き込まれる可能性も高いと思われる。今回の発表では、このような環境下での個人情報に関する学生の意識を調査し、報告する。
<キーワード>情報教育，インターネット，個人情報

1.はじめに

インターネット上のサービスの変容によって、使用者の個人情報に対する意識やその使用法は変わってくるといえるであろう。インターネットで利用される個人のコミュニケーション手段はメールの利用やホームページ、ブログ、簡易ブログによる発信、掲示板への書き込み、などがある。それらのサービスは無料であるもが多くみられる。それゆえ、サイトの使用方法やサイトへの登録情報の利用法などがサイトの運営者に任せられることが多い。つまりサイトの運営上の規則などの変更に伴い、個人情報に対するサイト運営者の利用者の扱いも登録した当初の取扱とは変わっていることもあるということである。したがって利用者はそれらの変更事項を十分に理解した上で、サイトの利用法を検討し、利用しなければならないだろう。

現在、短大生の間ではSNSの利用が多くみられる。しかし、SNSはそれ自体が変化をしてきている。SNSの利用が始まった当初に多くみられたすでに入会している会員の招待や承認を経て参加する方式のSNSから、会員間での招待や承認なしで一方的に入会できる方式のSNSが主流になっている。そして学生に多く利用されているSNSであるmixiにおいても、サイトが開設された当初、すでに入会している会員の招待状なしでは新規に入会することができなかったが、2010年3月1日より、招待なしでも新規入会が行えるようになった。

また、これらのサイトはつながりのある人と人をインターネットが仲介役として人的なネットワークを広げていくという性質上、出身地、出身校、所属学校・会社、本名などを登録する必要がある。さらに、ハードに保存されているメールアドレスなどの個人情報から知り合いを検索するなど個人情報の管理にはこれまでの以上の注意を要する。

つまり、不特定多数の人数の人間同士を個人情報で結びつけ、意図せぬつながりを作ったり、そのつながりによって個人情報が漏えいする可能性が出てくることになる。

こういった環境の中で、学生たちはどういった意識を持ってSNSを利用しているのか、を調査し今後の情報教育に活かしていくことが本発表の狙いである。

2.調査

調査対象　平成24年度、本学1年生対象授業である「コンピュータ基礎演習」を履修した学生70名（男性3名　女性67名）を本調査の対象としている。

調査期間　実施期間は2012年5月である。

質問項目　SNSと個人情報に関する1項目について選択式で行った。

3.結果と考察

3-1　SNSの利用状況

「あなたは、mixi や facebook twitter などのSNSを利用していますか。」との設問に対して「利用している」と答えた学生が58名で、「利用していない」と答えた学生が12名であった。

*1　AKUTSU Takeshi：昭和学院短期大学　e-mail=akt@showagakuin.ac.jp

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Educational Information

多くの学生がSNSを利用している実態がうかがえた。

3-2　SNSの利用者に対する設問

「あなたは、SNSの利用によって、犯罪に巻き込まれる可能性に対して不安を感じますか。」との設問に対して、SNSを利用していると回答した58人中36名が不安を感じているとしている。

不安を感じている学生36名と不安を感じていない学生22名に関して、「氏名を公開しているか」（図3）「学校名を公開しているか」（図4）「住所を（最寄駅）公開しているか」（図5）「個人を特定できる画像を公開しているか」（図6）についての回答結果を以下に示す。

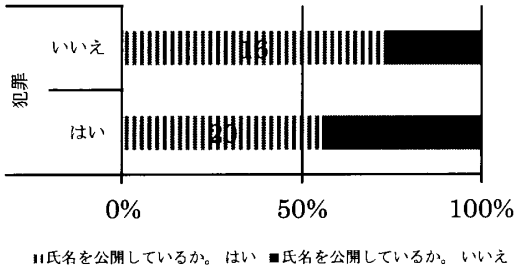

図 1　氏名を公開しているか
p=0.0200　＊（p<.05）（片側確率）

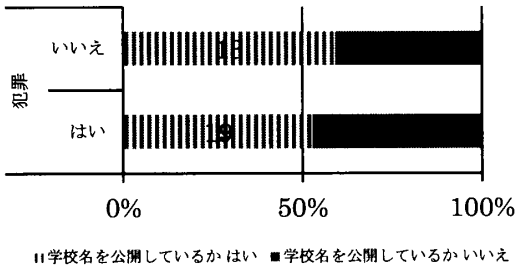

図 2　学校名を公開しているか。
p=0.1107　ns（.10<p）（片側確率）

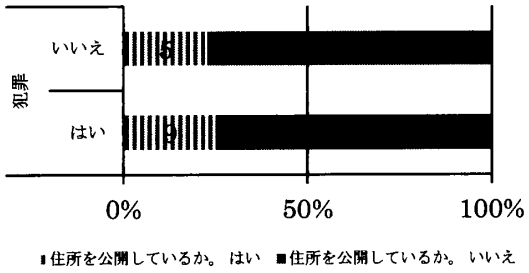

図 3　住所を公開しているか
p=0.4355　ns（.10<p）（片側確率）

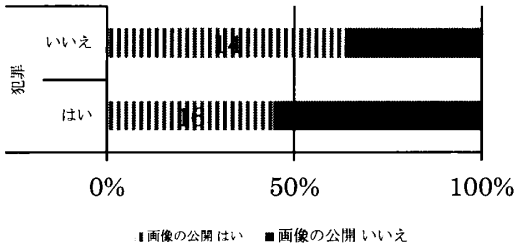

図 4　個人を特定できる画像を公開しているか。
p=0.0146　＊（p<.05）（片側確率）

SNSによる“友達”を検索する手段としては、「氏名」「学校名」は大きな意味を持つ。「氏名」「学校」の公開については50%以上の学生が公開していると回答しているものの、個人情報としても最も重要である「氏名」に関しては、犯罪に不安を感じている学生にやや慎重な姿勢が伺えた。「住所」に関しては多くの学生が公開に対して慎重な姿勢が伺えた。「画像」の公開に関しては大きな差がみられた。

3-3　SNSの利用方法について

「SNSで他者を含む個人情報の漏えいには気をつけていますか。」の設問に対して80%を超える学生が気を付けていると回答している。「気を付けている」とした学生48名の内、17名が「SNSのプライバシー設定の仕方を知っていますか。」の質問に対して「知らない」としており、その17名の内15名は「プライバシーの設定の仕方」を「知りたい」としている。個人情報に対する意識は高いものの、アプリケーションに対する使用法に関する自主的な習得への意欲が欠けているように思われる。

3-4　まとめ

今回の調査の結果では、学生の個人情報の流出への危険意識、個人情報漏えいに対する知識やスキルの習得への意欲はあるものの積極的なアプローチは行われていない、という結果が見えてきた。SNSは個人情報漏えいの危険性は否定できないが多くの学生にとって有益である。危険性への意識付けとともに、SNSの使用法について、それぞれのサイトを例に挙げ、使用法を授業に取り入れていく必要があり、そのためには学生に最も使用されているサイトなどのリサーチも今後、より重要になるであろう。

NII-Electronic Library Service